

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774001362
法人名	有限会社 豊中オアシス
事業所名	グループホーム桜塚オアシス
訪問調査日	平成 20 年 8 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2774001362
法人名	有限会社 豊中オアシス
事業所名	グループホーム桜塚オアシス
所在地	豊中市南桜塚4丁目11番4号 (電話) 06-6844-7688

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	16 人	常勤	7人, 非常勤 9人, 常勤換算 8.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	26,250 円
敷 金	有(299,250円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	13 名	男性	2 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	すこやかクリニック 松本歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊中市の中心部に近く、服部緑地へ徒歩で高齢者でも15分もあれば行ける所に事業者がある。木造瓦葺の元社員寮を改装した建物で、右隣には似た造りの別法人のグループホーム(豊中オアシス)である。こちらの事業所の特長は、安眠剤や安定剤などを出来るだけ使わずに、利用者の個性を尊重し、マンツーマンで寄り添う介護を目標としている事である。建物は新しくは無いが、清潔であり、職員の努力が感じられる。平成20年度に管理者や計画担当者など大幅な人事刷新があり、若い職員も増えて新鮮な行事の企画を担当し、経験者は介護の心を若手に伝授するなど、管理者を中心に、ベテランと若手の職員が協力して利用者や家族の満足度を高めるべく努力している所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価時に改善課題に上げた項目は現在も引き続き新しい管理者のもとに取り組み中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価の期間中に管理者の異動があるなどの関係で、自己評価への取り組みが十分でない点があり改善項目としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議がしばらく開催できていないので、今回評価での改善項目となった。地域に開かれた事業所の運営にとって大切な機能となるので開催が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者および職員は家族の心配事や意見、要望に対応するために、家族との信頼関係構築に努めている。また、そうありたいと願っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者および職員は、グループホームが地域に根ざした運営が求められている事を理解している。近隣と良好な交流を少しずつでも、出来る所から実現しようとしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を「明るく楽しい家庭的な環境、安全安心尊厳のある生活、入居者に応じた支援」としている。地域密着型サービスに向けた理念としては十分とはいえない。	○	現在、グループホームが求められている介護方針の方向に、家庭的環境での支援に加えて地域で暮らし続ける支援というものがあるので、理念にも表現することが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在掲げている理念を介護の基本においた日常の支援を管理者および職員は協力して実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣もグループホーム(豊中オアシス:法人は異なる)であり地域との交流に職員は努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価も数回経験して、改善課題に職員が協力して取り組んでいる。自己評価の取組みにおいて多くの職員の意見を反映させる事や点検項目が十分とはいえない	○	自己評価はサービス評価の中で重要な部分となっています。次回の評価では職員が参加してすべての項目について日ごろの取組みをチェックして新たな改善・向上を目指して欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年前に運営推進会議を実施して以来、その後は実施できていない。	○	開かれたグループホームの運営のために運営推進会議が必要とされています。市の担当部門に協力を要請するなどして当会議を軌道に乗せることが必要である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関する相談事等について市の担当部門とのコミュニケーションは確保できている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主として家族の訪問の時に、暮らしぶりの近況や健康状態、認知症状の変化等を報告している。必要に応じて電話等でも連絡し、職員は報告が遅れないように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主として家族の訪問時に要望を聞くようにしている。職員は家族との信頼関係が築けるように、話しかけるなどの努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職等による利用者や家族への影響を考慮して、職員体制の確保に努めている。職員も利用者や家族への影響を考慮してシフト変更等に協力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職してからの期間が短い職員には、ベテラン職員とシフトを組んで実践の中での研修育成に重点を置いている。段階研修は協同組合主催の研修カリキュラムを受講するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は自己の人的ネットワークを生かしながらノウハウの吸収に努めているのが現状である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の検討段階で入院先や担当介護支援専門員から出来るだけ詳しいサマリー情報を聞き取る。自宅や入院先を訪問して入所前の信頼関係を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は食事の準備や掃除や洗濯物たたみ等の日常の暮らしを利用者と一緒に行う中で支援していくように心掛けている。共に暮らすことを大切に考えている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や習慣、趣味やこだわり等を本人および家族から聞き取り、職員間で共有するように、できる限り本人ファイルに記録するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在は居宅ガイドラインによるアセスメントツールを使って、家族や関係者の意見を聞いて介護計画書を作成している。介護計画書に基づく介護を行うために必要な記録や書類の整備が十分とはいえない。	○	若い職員や最近入職した職員もいるので、チームケアの徹底のためには記録の整備と標準化が必要です。意見を出し合いながら介護関係記録の充実が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の短期目標について毎月モニタリングを行って評価している。計画の見直しは職員が意見を出し合ってアセスメントをするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人暮らしやキーパーソンが遠地の利用者には、本人本位に必要とする外出や通院支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実態は少ないがかかりつけ医の受診を尊重している。提携医療機関による訪問往診は週1回実施して利用者の体調管理体制を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の希望や家族の意向を尊重しながら、出来る限り事業所で支援していく方針としている。最近の事例では、急な容態変化のため入院となったが職員の協力で看病を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの保護に関する職員への研修指導は徹底している。職員の利用者への言葉掛にも個人の尊厳への配慮が感じられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当事業所の特長のひとつに利用者の暮らし方への尊重が上げられる。薬(眠剤など)を出来るだけ控えて、家事をしてもらうなど、日中からだを動かすことで安眠を確保する介護の仕方を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2階ユニットの利用者は比較的にADLが軽度であるから、食事の準備や後片付けを職員と一緒に行うことが出来ている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2回行っている。時間帯は午後で入浴が終わってからおやつ時間としている。足欲にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	若い職員が増えたので楽しみごとの企画が豊富になったようである。歌、体操、輪投げ、算数計算、将棋、回想法的ゲーム等々を行って、気分転換や暮らしのアクセントをつけるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分、その日の天候を考慮しながら事業所の周囲を散歩したり、調子が良い時は、服部緑地まで歩いていく時もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物内の廊下が広く、日中は1, 2階のユニットの行き来はフリーである。玄関側が職員事務所であるために外へ出る利用者には職員が見守りながら対応出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員を中心とした避難訓練は行われている。昼間や夜間等を想定した避難誘導シミュレーションが十分とはいえない。	○	既築の木造瓦葺構造であるから、火災を想定した速やかな避難誘導が職員の意識に必要と思われるので、訓練を徹底して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は記録されて利用者ごとに管理されている。健康状態に応じた栄養管理がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレなどの段差を最大限無くする様に改装がされている。昔の学校のように広々した廊下が閉塞感を無くしている。廊下が広いので大きめのソファが所々に置かれている。利用者がこしらえた紙のリングが施設っぽくならない程度に飾られている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い家屋の改装であるが、居室はスペースがあり清潔に保たれている。利用者の介護状況に応じて、本人のなじみの品物が持ち込まれたり、飾られたりしている。職員の配慮が伺える居室作りとなっている。		